

と く
徳

ほ う
朋

やまい えん
病をご縁として

田畑 正久

たばた まさひさ

1949—現在

大分県出身。医学博士。佐藤第二病院院長。龍谷大学大学院教授。大分大学非常勤講師。

仏さまとは、物理的に存在するものではなく、道理どうりに目覚めさせてくださる「はたらき」のことをいうのです。そのはたらきに照らされる時、私たちの思いや考えの狭さ、浅さ、そのために迷いを繰り返している相すがたを知らされるのです。(中略)もう亡くなられましたが仏さまの教えを深くいただかれた藤代ふじしろ聰としまる磨という方が「これからがこれまでを決める」という言葉を残しておられます。

自分の過去を振り返ると、自慢したいこともあるでしょう。一方で、人に言えないこと、悲しかったこと、悔しかったこともあるでしょう。しかし、そのことは決して無駄な事ではなく、仏さまの教えに出遇ってみると、自分が今日仏さまに出遇うためには、それらの事柄があったればこそだった。いつの間にか、過去の諸々もろもろの事は仏さまに出遇うための貴重なご縁であった、と深くうなづけるのです。

私にとって都合の良いことも、また悪い事も、私を取り巻くすべての出来事は、「人間に生まれてよかった」という目覚めへの促うながしということでしょう。そのことに目覚め、その世界におまかせ出来る時、「人生に無駄なものは何もなかった、南無阿弥陀仏なむあみだぶつ」といのちを生ききっていけるのです。

現代社会はすごい速度で変化し、その中で能率、効率を強く求められる環境になっています。そういった中で、色々な事柄に直面する時、世間的なモノサシや自分の都合に合ったモノサシで、善悪、損得、勝ち負けなどを素早く計算しています。病^{やまい}のこともその例外ではないでしょう。

一旦、自分の思いから距離を置いて、「私が抱えたこの病^{やまい}は私に何を伝えようとしているのか」、「この現実^{じゅうげん}は私に何を教えよう、目覚めさせようとしているのか」と考えていただきたいのです。仏さまの教えは、私たちが当たり前としていることを常に問い直させるものなのです。その教えに出遇わせていただく時、病^{やまい}を含めたあらゆる現実^{じゅうげん}を柔軟に受け止め、苦悩は無くなりませんが、苦悩の質的転換に導かれ、生きていく方向と勇気もたらされるのです。辛^{つら}くて、悲しい毎日の日暮^{ひぐ}しの中にあって、どうか病^{やまい}をきっかけに、人生の中で出遇わねばならぬことに出会っていただきたいと思います。そのことが、病^{やまい}に悩む方^{おこ}に贈る私からのメッセージです。



(『病^{やまい}に悩むあなたへ』)

仏さまとは道理^{どうり}を知らずに悩み苦しむ私たちに気付きを促す「はたらき」です。辛い出来事にも私に対する「問い」があります。全ての出来事を大切なご縁にしていきたいものです。(哲弘 拝)

この「徳朋^{とくほう}」は仏教を拠り所としている方々の言葉に直に触れ、仏教を頭で一生懸命に理解するのではなく、この身で感じる事を願いとして副住職が毎月作成しています。

